

# 札幌市環境プラザ運営協議会

## 平成26年度第2回実施概要

- 1 日時 平成26年12月3日(水)午後7時～午後9時
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
  - (1) 委員：内山委員、岡崎委員、鎌田委員、川見委員、今委員、渋谷委員、成田委員、宮森委員、岩寄委員 (欠席：高木委員)
  - (2) 札幌市：環境局環境計画課環境教育担当係長、計画係担当
  - (3) 事務局：(公財)さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課長、環境係長、指導員、臨時職員
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 札幌エルプラザ公共4施設館長のあいさつ
  - (3) 公募委員の紹介 鎌田委員
  - (4) 近況報告
  - (5) 報告 ①平成26年度 事業報告(中間報告)  
②「展示物一部更新について」進捗状況
  - (6) 議事 「次年度に向けてどのようなことが必要か」
  - (7) 閉会

## 5 報告・議事概要

### (5) ①平成26年度 事業報告(中間報告)

・事務局より平成26年度札幌市環境プラザ事業報告(中間報告)について説明。

<事前にいただいた「委員からの質問」と、それへの回答>

Q1 プログラムの汎用化とはどのようなことなのか。

A 環境プラザがこれまで独自に作成し実施してきた環境学習プログラムを、各地で環境学習に取り組んでいる皆様に使いやすい形で提供することを考えている。

Q2 協働イベントと協力事業との違いは？協力事業は環境活動団体からの要請があるのか知りたい。

A 概要の中で協働イベントと表記している中には、共催事業や協力事業が含まれると考える。共催事業は企画から実施まで一緒に考えて実施していく事業であり、協力事業は団体が主体となって実施するもので、環境プラザは必要とところで協力させていただく事業である。また、共催事業や協力事業は団体からご依頼があった時に、その都度環境プラザで「共催」「協力」を検討して実施を決めている。

Q3 環境教育リーダー全体会および環境保全アドバイザー全体会ではどのような意見が出たのか。

A 環境教育リーダー全体会では次のようなご意見をいただいている。

① 派遣の件数が非常に多くなっているが、幼児や保育園での環境学習、川での環境学習の派遣に対応できるリーダーが少ない。

② 要請のある学校や学習会主催者との連絡調整をする「とりまとめ役」が一人に偏っている。

これらから、件数が伸びているが件数に制限をかけてはどうか、募集方法や募集期間についても改めて検討してはどうかというご意見をいただいている。

A 環境保全アドバイザーの全体会では、次のようなご意見をいただいている。

① 家庭教育学級で取り組むべき項目の中で、環境分野がなくなっている。そのため主催者が派遣依頼をしにくくなってきたという声がある。

② 高齢化の一層の進展により、老後必要がなくなったものを整理するために、リサイクルの分野でのアドバイスがこれから必要になるのではないかと。

Q4 環境プラザが考えるESD促進事業とはどのようなものか。

A ESDとは「持続可能な開発のための教育」ということで幅広いが、環境分野では、環境に優しい社会づくりや、環境保全への貢献が挙げられると思う。持続可能な社会を目指して自ら行動できるような人が増えて欲しいという思いから、そのきっかけ作りとしての講座を行っている。

<委員からの質問と、それへの回答>

Q5 重点目標にツールの開発とあるが、どういったツールの使い方を考えているのか

A 閲覧用パンフレットの情報をネット上で持ち帰られる工夫を考えており、今スマートフォンの利用が多くなっているので、URLを打ち込むよりも、QRコードを読み取った方が速く、身近に持っているもので簡単に見ることができると思う。

Q6 企業と学校のマッチングのところでやっている、企業の聞き取りを2、3紹介して欲しい。

A 訪問し、お話を伺うことでより具体的な課題がわかるので、質問票を配布するだけでなく、訪問して話を聞くことを今後進めていきたい。

#### (5) ②「展示物一部更新について」進捗状況

- ・札幌市より展示物一部更新についての進捗状況について説明。
- ・評価委員会からの意見もあり、内容を変える方向で業者と調整中とのこと。

<委員からの意見として>

○提案されたプランを見ると、残念ながら何を学んでほしいと思っているのか、この展示をとおして伝える、学んでもらう方針なり、メッセージが伝わってこない。

○提案されたプランの展示物や設備を見ると、これらをどのように使い、いかに説明するかが見えてこない。単純に各家庭のミニチュア版をここに持ってきただけで、メッセージ性がないのではないかと思う。もう1回原点にかえて、時間をかけてやった方がよい。例えば、蛍光灯からLED照明に変えること、暖房をバイオマスなどを利用することで、どのようなメリットをもたらすのかなど説明できるようにするべき。

○一つひとつの部屋で10分程度の体験プログラムをまず考えてみて、それに対応できる展示物を設置することで、より実践的な内容になるのではないかと。例えば、輝度を下げたりする省エネ設定がやりやすいテレビを選定するなど、体験プログラムを基本にすることで、ここで疑似体験したことを即、自分の家でも実践したくなるような展示になったらいいと思う。

○目指す姿のようなものは書かれているが、それに向けての具体的な手法が分からない。さまざまなコンテンツを用意するにしても、その中でどのようなギミックや表現を取り入れ子どもたちに理解させるのか等、具体的な方法も業者としっかり検討してほしい。

○子どもが使うことを考えた場合、学校現場には「これを点灯するとどれだけの電力になるのか」を学ぶ設備がない。そういう意味で、環境プラザでなければ体験できないことが提供されて、価値がでる。例えば、テレビをつけるとこれだけCO<sub>2</sub>が出たり、電気量のはね上がったたりすることが数字やグラフで可視化されるようにするなどして、子どもが自分の家に戻ったときに、どのように生活すべきかを考えられるようになる

っていくのが望ましい。

○市民全般というより、子どもをターゲットにしてはどうかと思う。私が一番楽しそうだったのは、省エネゲームである。家全体の省エネについて学習できるゲームを用意し、体験性を高めると書いてある。ハウススタジオで1時間を1分間という時間の流れを決め、省エネのピンチ、SOSのような表示を行い、子どもがこれを消そう、あれを消そうと言って消していくと、それがモニターで見えるようになって、ゲームオーバーになるのか、セーフになるのかわかりませんが、特に電気代がかかるのはこれなのだということを実感できると思う。

出張体験用展示というスーツケース型のものですが、スーツケースが小さいので、やるとしても3人か4人ということを見ると、学校には1学年に80人も100人もいるわけですから、回すのに大変な時間がかかるので、全員ではなかなか体験できない。活用するには何十台も必要であると思う。

○アンペアや電気の容量、部屋ごとで回路が違ったりとか、コンセントで1回に流せる量が決まっていたりとか、もう少し基礎的なことがわかるような仕組みになっているといいのではないかなと思う。

#### (6) 議事「次年度に向けてどのようなことが必要か」

・教師向け研修「アウトドア環境教育」、幌北小学校 出前事業について、事務局から報告。  
・たくさんある事業の中で、どこにウエイトを置いたらよいか、いろいろな連携の中でもっと効果的な方法があるのではないかなという部分を提案していただいた。

○出前事業や教員研修は、なかなか希望校や人が集まらなかったということなので、本当に環境プラザが時間や労力など様々なことを考えながらやることなのだろうかと思う。もっと、他の団体でできるところがあるのだったらそちらにお願いしてもいいのではないかな。

○リーダー派遣が多いのは幼稚園で、小学校は派遣依頼が少ないのではないかなと思う。小学校に行くと、興味のない子にもいろいろレクチャーできるので、すごく大事だと思う。その機会は、環境プラザや札幌市がやらないと、なかなかつくることができない。

○5人しかスタッフがなくて、この人たちがプロパーでこの先もずっといるのであれば積み上げがあると思うが、異動があったりする中で、常にこういう対応ができるかどうかを考えると、他と連携しながらそれを厚くする方策を考えたほうが現実的かなと思う。

○出前授業はすばらしい事例と思う。子どもたちの学びがすごく育つと思う。しかし、市内には子どもたちが通う学校が200校ほどある。プラザが対応することは、ちょっと大変ではないかな。これはすごく負担が大きかったのではないかなと思う。総合的な学習の時間のカリキュラムなど、授業づくりを行っていくのは私たち教師の仕事なので、むしろ、環境教育リーダーをどういうふうに派遣すると効果的なのかなとか、環境教育リーダーのパイプ役として私たちにつなぐとか、年度当初にそういう研修や講座があって、各学校に環境教育リーダーが1人とか2人が来るようになれば、全学校に広まっていくと思う。

○汎用性ということがありましたが、ビオトープがなくても公園や校庭でできるプログラムなどを示していただけると学校に広まっていくと思う。現在、札幌市の小学校に対して、「教育課程編成の手引」という教師向けの資料を作っているが、そこに「環境副教材を参照」、「環境教育リーダーの活用も考えられる」ということを入れ込み、周知していきたいと考えている。

○皆様のご意見をいただきながら、(職員に)何とかもう少し頑張らせてみたいと考える。

○汎用化を考えると、他のリソースもあるので、それをご活用されたほうがよいのではないか。

○今後、リーダー派遣等を含めて環境プラザがやっていくのだったら、自分たちで汗をかいた経験がなければいけないと思う。まずやって、工夫して、その中から一緒になって泣き笑いができる職員。そういうキャリアを持った方々をぜひ大切にしていきたい。箱だけではなくて、人があっての環境プラザなのだという課題が出てきたと感じる。

○学校ごとに全くニーズが違うということがあり、かなりきめ細かな対応をしていかないと、学校の先生方もぼやっと終わってしまうことがあるので、それを一緒に考える土台をつくってあげることが必要かと思う。

先生方は忙しい。一方で、環境について子どもたちに教えたいNPOの方はたくさんいらっしゃる。先生方のニーズとNPOのニーズをマッチングしていくことは非常に大切なことと思う。今、環境教育リーダーの派遣事業はあるけれども、単発の繰り返しで、全部がつながっていないところがあるので、それをつなぐような仕組みが必要かと思う。企業は自分たちのノウハウを社会貢献として手弁当で教えてくれる可能性がある。一方、NPOはいつまでも無料で行えるものではない。学校の方も予算が限られているので、限られた予算を選択と集中して、ある学校では〇〇というニーズがあって、あるNPOは〇〇ということをお教えられるというマッチングを環境プラザがやっていくことが必要だと思う。

○環境教育リーダーや環境保全アドバイザーの全体会への参加人数が少ないという印象がある。これらの方々の研修や相談窓口、気軽に情報収集できる拠点としての環境プラザの役割がとても重要になると思う。

○何を良しとしているのか？目指す姿があっても、それを達成したかどうかの判断基準が分からないので、ターゲットごとに目標値的なものをつくってはどうか？予算、人といった限られた資源の中でやっていかなければならないので、効率的な運用も含め総合的に考え取り組んでほしい。

Q 幌北小学校の出前事業で主体的な学習につながったという話があったが、何をもちょう言えるのか？

A 植物を調べる際も、子どもたちはもっと自分たちで調べたかったようで、あえて難しい図鑑を手にとって調べてみたり、ほかのグループがどんなまとめをしたのかということも、こっちが指示するというよりは、自分たちで知りたいというところが、その時間だけでも見えた。

Q 教師向け研修や出前授業など効果が出ていると思うが、我々が話しているのは環境プラザの活用につなげていく話だと思う。活用という視点で、環境プラザの役割がどの程度果たせたのかという検証や分析は行われているのか

A 環境プラザの出前事業の目的としてアウトリーチを行うことで、環境プラザを知り、活用していただくきっかけ、呼び水としての役割を重視している。環境プラザ本体の利用は平成25年度から26年度にかけて増えており、一定の成果があると考えている。

○今回傍聴席が用意されているが、ホームページでの案内は前日か前々日だった。せっかく傍聴席を設けるのなら、開催日がわかった時点で案内されるようにしていきたいし、それがわかるようなところに、記載していきたい。

以上